

# トラック輸送情報（平成18年6月分）

平成18年9月8日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：浅見、安達 内線28315

直通：03-5253-8344

ホームページ：<http://www.mlit.go.jp/>

## 1. 特別積合せ貨物

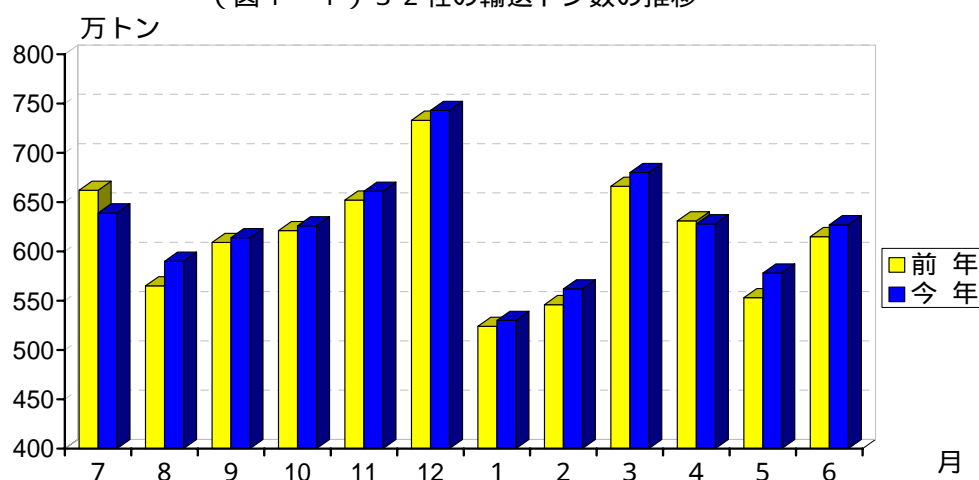
### (1) 本月の概況

調査対象32社の本月の輸送量は、6,269,046トンで、前月と比べ、総輸送量が約49万トン増加したため、前月比108.5%（季節調整済み103.0%）前年同月と比べ、約12万トン増加したため、前年同月比102.0%の実績であった。

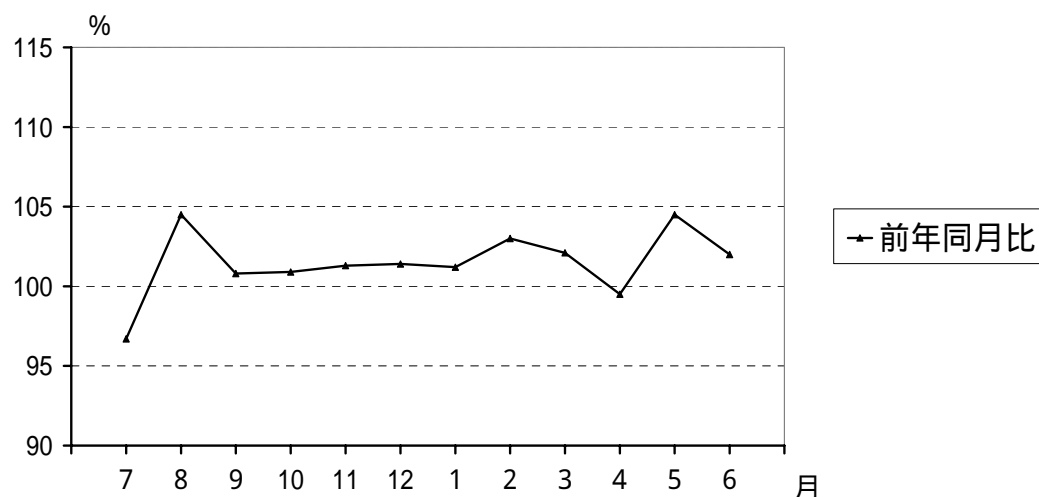
なお、平均稼働日数は25.3日で、前月と比べ1.9日の増加、前年同月と比べ0.1日の減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、247,788トンで、前月と比べ、約1千トン増加したため、前月比100.3%、前年同月と比べ、約6千トン増加したため、前年同月比102.4%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）32社の輸送トン数の推移



（図1-2）32社の輸送トン数の前年同月比

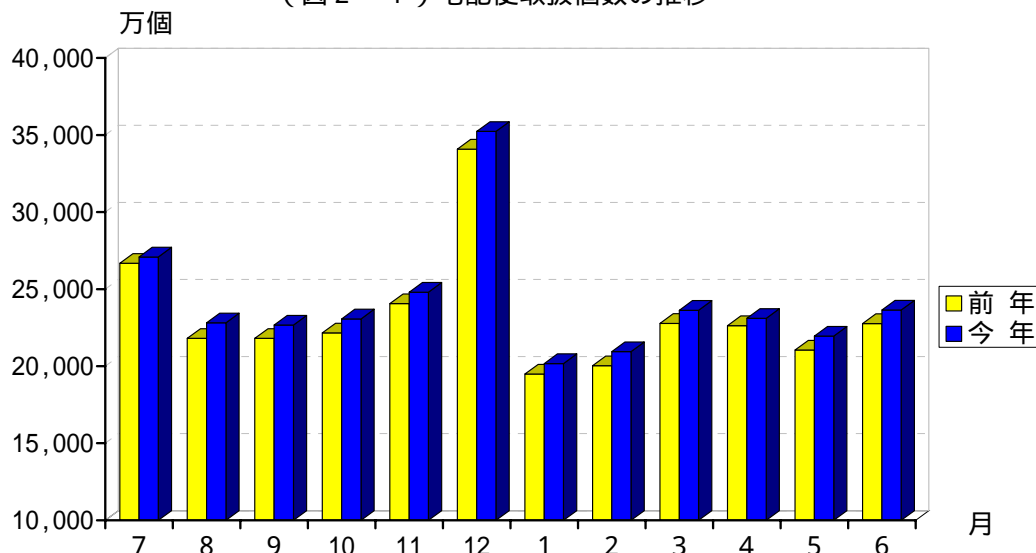


(2) 宅配便の概況

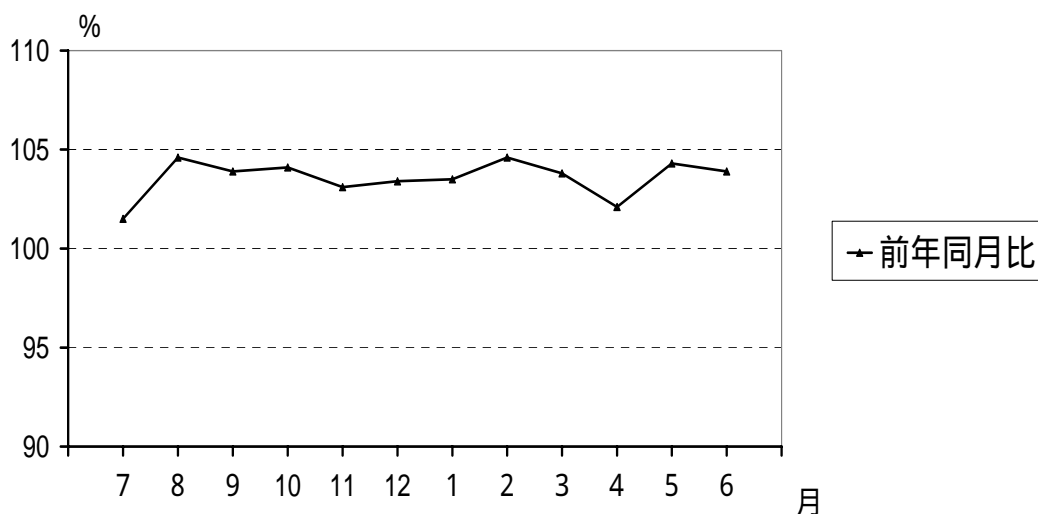
調査対象 19 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、236,443 千個で、前月と比べ、約 1,689 万個増加したため、前月比 107.7% (季節調整済み 99.7%)、前年同月と比べると、約 880 万個増加したため、前年同月比 103.9%の実績であった。

(図2-1、図2-2参照)

(図2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表1参照)

前月と比べると、平均稼働日数が増加したことから、全ての品目で輸送量の増加が見られた。理由としては、工場・生産地からの貨物増、季節的需要増であった。また、機械、化学工業品、食料工業品、日用品では倉庫から出る貨物増も見られた。地域的には、北海道が日用品で、東北が農水産品、日用品で、北陸信越が金属製品で、機械、中国が農水産品、金属製品、化学工業品、繊維工業品、食料工業品で、関東地方、愛知及び大阪は全ての品目で輸送量が増加した。

前年同月と比べると、化学工業品では工場・生産地からの貨物増、その他が全国でデパート、スーパーの貨物増が見られた。一方、農水産品、金属製品、機械、繊維工業品で工場・生産地からの貨物減が見られた。地域的には、東京、関東及び中国が化学工業品、その他が全国を中心にそれぞれ増加した。一方、東京が機械、繊維工業品、中国が農水産品、東北、中部地方及び兵庫が繊維工業品、四国が食料工業品、関東が日用品を中心にそれぞれ減少した。この結果、全体としては、対前年同月比 102.0%となった。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因
	著増	増	変らず	減	著減			
前 月 に 比 べ て	農水産品	2	3	13		青果物、野菜	東北、関東、中国	4
	金属製品		11	14	2	その他の金属製品	関東地方、北陸信越、愛知、大阪、中国	4, 8
	機械		10	15	1	その他の機械、機械部品	神奈川、関東、北陸信越、愛知、大阪、兵庫	4, 7, 8
	化学工業品	1	16	13		その他の化学工業品	関東地方、愛知、大阪、中国	4, 7, 8
	繊維工業品	1	6	22		織物	神奈川、関東、愛知、中国	4
	食料工業品	1	14	10	2	加工食品、飲料、その他の食料工業品	東京、関東、愛知、大阪、中国	4, 5, 7, 8
	日用品		11	16	2	その他の日用品、書籍・印刷物	北海道、東北、関東地方、四国	4, 5, 7, 10
	その他	1	8	17	1	宅配便	関東地方、愛知、大阪、兵庫、全国	4, 8, 10
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		2	12	3	野菜	中国	4
	金属製品		2	22	2	その他の金属製品		4
	機械		1	21	4	その他の機械	東京	4
	化学工業品	1	4	23	2	その他の化学工業品	東京、関東、中国	4
	繊維工業品		1	23	5	織物	東北、東京、中部地方、兵庫	4
	食料工業品	1	1	20	5	飲料		
	日用品		2	21	4	その他の日用品	四国	7
	その他		6	19	3	書籍・印刷物	関東	
						全国	2	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2 . 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者数 851 社 / 調査対象事業者数 1,071 社)の輸送量は、前月比 107.9%、前年同月比 100.1%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全国	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
前月比	107.9%	113.4%	106.3%	108.3%	106.0%	107.8%	108.3%	111.5%	100.0%	102.4%	107.3%
前年同月比	100.1%	97.6%	99.2%	104.7%	101.3%	99.0%	100.8%	103.8%	98.5%	101.9%	100.4%

### (2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況(各運輸局より回答のあったもの)

北海道	<p>本月の輸送は、対前月比は 113.4%であった。品目別には、建設土木工事が活発化してきたことに伴う「砂利・砂・石材」、「セメント」等の輸送量が増加し、また「木材」、「食料工業品」の輸送量も増加した。一方、「動植物性飼・肥料」が減少した。対前年同月比は 97.6%であった。今後の輸送見通しとしては、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送は、対前月比 106.3%であった。品目別には、夏期及び中元シーズン前であるが季節的な需要増である「食料工業品」、「野菜・果物」の輸送量が増加した。他は、建設関係の需要増により「砂利・砂・石材」が増加した。一方、「木材」、「鉄鋼」、「その他の石油製品」の輸送量は減少した。対前年同月比は 99.2%であった。今後の輸送見通しとしては、次月及び以降ともに横這い傾向と予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送は、対前月比 108.3%であった。品目別には、お中元のシーズンに向け需要増がある「その他の農産品」、「日用品」の輸送量が増加した。一方、「その他の石油製品」、「紙・パルプ」の輸送量が減少した。前年同月比は 104.7%であった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
北陸 信越	<p>本月の輸送は、対前月比 106.0%であった。品目別には、建設関係の需要増により「砂利・砂・石材」、「セメント」の輸送量が増加した。また、「野菜・果物」、「木材」、「非鉄金属」、「金属製品」、「機械」、「その他の窯業品」が増加した。一方、「鉄鋼」、「紙・パルプ」、「日用品」の輸送量の減少が見られた。対前年同月比は 101.3%であった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに横這い傾向と予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送は、対前月比 107.8%であった。品目別には、季節的需要増により「野菜・果物」が増加し、その他、「紙・パルプ」、「その他の製造工業品」、「その他」の輸送量が増加した。一方、「その他の農産品」、「砂利・砂・石材」の輸送量が減少した。対前年同月比 99.0%であった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに横這い傾向と予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、対前月比 108.3%であった。品目別には、季節的需要増により「食料工業品」が増加し、その他、「機械」、「その他の化学工業品」、「紙・パルプ」の輸送量が増加した。一方、「野菜・果物」、「水産品」、「砂利・砂・石材」、「金属製品」、「その他の石油製品」の輸送量が減少した。対前年同月比は 100.8%であった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送は、対前月比 111.5%であった。品目別には、季節的需要増により、飲料水を中心に「食料工業品」の輸送量が増加し、その他、「鉄鋼」、「金属製品」、「その他の化学工業品」、「日用品」、「取り合せ品」などが増加した。原油価格高騰のため、石油関連製品の出荷が減ってきていることにより、「その他の石油製品」、「紙・パルプ」が減少した。対前年同月比は 103.8%であった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに横這い傾向と予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送は、対前月比 100.0%であった。品目別には、建設関係により「砂利・砂・石材」、季節的需要増により「水産品」、「食料工業品」、「日用品」などが増加した。一方、季節的需要減により「野菜・果物」、「化学肥料」などが減少した。対前年同月比は 98.5%であった。今後の輸送見通しは、次月は横這い傾向、以降は減少傾向と予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送は、対前月比 102.4%であった。品目別には、季節的需要増等により、「機械」(電化製品)の輸送量が増加し、その他、「その他の窯業品」、「食料工業品」などの輸送量が増加した。一方、季節的要因による出荷の減少により、「野菜・果物」の輸送量が減少し、その他、「木材」、「セメント」などが減少した。対前年同月比は 101.9%であった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともに横這い傾向と予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、対前月比で 107.3%であった。品目別には、季節的需要増により、「食料工業品」(飲料水)、「水産品」(マグロ)、「取り合わせ品」、「野菜・果物」(ゴーヤー)、「穀物」(米)等が増加した。一方、「その他の農産品」(切り花(菊))、「紙・パルプ」が減少した。対前年同月比は 100.4%であった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局										
		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増		1		1				1	2	1	6
	減	1	1					1		1		4
2. 野菜・果物	増		5	1	2	1				5	1	15
	減		1	1			1	1	3	8		15
3. その他の農産品	増	1	1	3			1					6
	減	2				1					2	5
4. 畜産品	増											
	減							1				1
5. 水産品	増	3		1					3		1	8
	減	1	1				1		1	1		5
6. 木材	増	4			2			3				9
	減	1	3					2		2		8
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増	1	1									2
	減	1										1
9. 金属鉱物	増					1						1
	減											
10. 砂利・砂・石材	増	21	4		3			2	1	3		34
	減	1			1	1	1			4		8
11. 工業用非金属鉱物	増	1	1					1		1		4
	減		1		1							2
12. 鉄鋼	増						1	4		2		7
	減	1	2		2					1		6
13. 非鉄金属	増			1	2							3
	減						1					1
14. 金属製品	増	1		1	2	1		4			1	10
	減		1				1	1				3
15. 機械	増	1	1	2	2	2	3	3		6		20
	減			1		1	1	1				4
16. セメント	増	5	1		2	1		1	2	2		14
	減								1	4		5
17. その他の窯業品	増	1	1		3	1		1	1	3		11
	減		2		1	1			1	1		6

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
	18. 揮発油	増				1				1		
	減				1							1
19. その他の石油製品	増	2								2		4
	減	2	2	2	1		1	1		1		10
20. コークス・ その他の石炭製品	増	1										1
	減				1							1
21. 化学薬品	増		1		1			2		1		5
	減							2				2
22. 化学肥料	増	1	2									3
	減	1							2	1		4
23. その他の化学工業品	増				1		2	4		1		8
	減							1	2			3
24. 紙・パルプ	増	2		1	1	2	2	2	1	2		13
	減		1	3	3			3	1	2	1	14
25. 繊維工業品	増		1			1	1					3
	減											
26. 食料工業品	増	3	11	1	1	1	4	8	7	3	2	41
	減		1				1	3		1		6
27. 日用品	増	2		5		1	1	3	1	2		15
	減	1			3		1			3	1	9
28. その他の製造工業品	増		2			3	1	1		1		8
	減		1	1		1				1		4
29. 金属くず	増											
	減											
30. その他のくずもの	増											
	減											
31. 動植物性飼・肥料	増		1	1								2
	減	3		1								4
32. 廃棄物	増			1				1		1		3
	減	1								2		3
33. 輸送用容器	増	1						2				3
	減							1				1
34. 取り合せ品	増			1				3	1	1	3	9
	減		1									1
35. その他	増		1	3	2	4	1	2		2		15
	減			1	2	1	2	3	1		1	11